



広報 いせはら

Public Relations Paper

ISEHARA

令和5(2023)年

No.1269

6月1日

主な記事

- 2 皆さんのお聴きしました
- 4 5 未来の自然を守るために、今取り組もう

私たちが食べる米や野菜などの農作物を安定して作るために、適切に肥料を与え、病害虫・雑草の防除を行って管理する必要があります。管理には農薬を使用することもあり、使用方法を誤ると、土壤の微生物の減少などさまざまな悪影響を及ぼし、生産効率を落とすだけでなく、環境への負荷がかかります。県内一の米どころといわれる大田地区土地改良区・区域ほ場整備地内(下谷1491付近)では、毎年5月に「れんげ祭り」が行われ、まつりの後、咲き終わった花を肥料にして米作りを行っています。農閑期には、農業用水路の管理や農道の補修、水路の草刈りなどをを行い、水辺の生きものが育める場を生み出し、環境と調和のとれた農業を進めています。

6月は環境月間。この機会に自然を守り、将来に残していくため私たちにできることを考えてみませんか◆4・5面では、環境を守るための取り組みについて掲載しています

岡大田地区土地改良区(面)97-8444(月・水・金曜日)
回農業振興課農林整備担当(面)94-4676

芽生える環境への思いやり

伊勢原市ふるさと大田を守り楽しむ会の活動

